

令和3年度美術館評価調書

(その1)

近代美術館

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	9.2%	15.4%	167.4%	a	・4期にわたるコレクション展は、新型コロナウイルス対応の緊急事態宣言と緊急修繕工事による閉館で1期と4期の開催期間が短くなり、特に4期は展示替予定の作品が公開できなかったが、移動美術館等を含め、311点の作品を展示することができた。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用					・道立他館含め多くの道内美術館での展示、さらには道外美術館における企画展での展示など、当館コレクションが活用される機会が多く、521点の貸出があった。
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				b	・美術品取得基金を活用し、映像を用いたインスタレーションという、新たな表現を展開する北海道在住作家・伊藤隆介の作品を購入し、収集方針のひとつである「北海道の美術」の幅を広げることができた。 ・4年にわたって調査・整理し、継続してきた友田コレクションの500点を越える版画受贈が今年度で完了したほか、戦後日本を代表する洋画家・野見山暁治や現代のガラス工芸作家・家住利男の大作の寄贈があり、コレクションが充実した。
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				c	・収蔵庫はじめ広範囲にわたる館内の害虫調査を継続、さらに専門機関による講習会への参加や調査依頼を行うなど保存の知識と意識を高め、適切な環境の保持に努めた。 ・収蔵庫の棚を改修、より効率的な収蔵環境を整えた。 ・池田良二作品4点の額に低反射アクリルを装着した。 ・野外彫刻5点を修復し、次年度の修復計画も立案した。 ・展示室の老朽化による施設設備等の不調が生じたが、迅速に修繕を行った。

【基本的運営方針】 Aの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	○収蔵計画に基づいて作品収集を推進し、コレクションの活用と保存に取り組むことが必要。
	○コレクションの活用と充実に大きな成果をあげることができた。
	○次年度も、作品の素材、技法、状態に応じた活用と保存の両立に努めていく。IPM(総合的有害生物管理)のいっそう効果的な実践をめざし、調査、環境保全に努めていくほか、施設設備の老朽化への対応に関し、継続して調査や検討を行い、具体的な方策を講じていく。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

令和3年度美術館評価調書

(その2)

近代美術館

【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	44,892人	18,415人	41.0%	d	<p>・今年度は「コレクション・ストーリーズ」と題して、コレクションをジャンル毎に紹介する企画だったが、5月の緊急事態宣言、さらに1月末から年度末までの緊急修繕工事による約3ヶ月の休館があり、観覧者数は指標の半数以下にとどまり、リピート率も減じた。</p> <p>・展示観覧者の満足度は高く、「この1点を見てほしい。」の企画や、照明の効果に配慮したガラス展などが好評であった。</p>
	常設展示観覧者の満足度	90.0%	89.6%	99.6%		
	常設展示のリピート率	72.5%	60.5%	83.4%		
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	299,331人	71,501人	23.9%	d	<p>・緊急事態宣言により「国貞 広重 国芳コレクション」展が会期中で中止となったほか、緊急修繕工事のため「羽生輝展」の開催を次年度へ延期するなど、展覧会開催日数が大幅に減少した。</p> <p>・観覧者数は減少したが、「へそまがり展」の解説文が好評を得るなど、来場者アンケートは総じて好評価の感想が多かった。</p>
	特別展示観覧者の満足度	93.3%	91.7%	98.3%		
	特別展示のリピート率	73.9%	61.3%	82.9%		
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	<p>・HPで新型コロナウイルス感染症対策や開館状況について、細やかに情報提供を行った。アンケートでは、コロナ禍のなかでも開館していること自体への感謝の声が複数見られた。</p> <p>・「へそまがり日本美術」展ではクイズ形式での展覧会紹介の動画を「北海道リモート・ミュージアム」として配信するなど、インターネットやSNSでの取り組みも随時工夫して行った。</p>
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	<p>・コレクションのガラス展では、照明の種類や照射角度の工夫を行い、素材の美しさをより際立たせ、好評であった。</p> <p>・「へそまがり日本美術」展では、素朴ながらも味わい深い作品を紹介。日本美術の新たな楽しみ方を示すというねらいを、当館の所蔵品を加えた幅広い作例で表現できた。</p>
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	95.7%	96.0%	100.3%	b	<p>・移動美術館を天塩町、置戸町の2会場で実施した。コレクションの全体像がわかるよう、「エコール・ド・パリ」、「北海道の美術」、「ガラス工芸」の各ジャンルの作品を織り交ぜて展覧会を構成し、両町で幅広い層の来場者を集め、好評であった。</p>
	その他の館外展示の状況					

【基本的運営方針】 Bの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	<p>○展示活動の充実を図り、来館者数だけでなく満足度の向上にも努めることが必要。</p> <p>○緊急事態宣言や施設の緊急修繕工事による休館は生じたが、迅速に対応・調整し、鑑賞機会の提供を継続できた。また正倉院宝物をはじめとする古美術から現代のアニメーション作品まで、多彩なジャンルやテーマの展覧会を開催することができた。</p> <p>○施設・設備に起因する臨時休館を防ぐために、計画的で適切な点検やメンテナンスに努める。また、展覧会内容については、バラエティと独自の特色との両立に、展示方法については、作品の魅力を引き出す工夫に、引き続き努める。</p>

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

令和3年度美術館評価調書

(その3)

近代美術館

【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	35回	36回	102.9%	b	<p>・新型コロナウイルス感染症対策として事業の一部を中止したが、コンサートや記念講演会、ミュージアムトーク等を、人数制限を行いながら実施した。また、オンラインツアー、「北海道リモートミュージアム」、「カルチャーナイト」オンライン参加など、自宅などに居ながら美術館を楽しむことのできるコンテンツの充実に力を注いだ。</p> <p>・「教育普及プログラムの満足度」については、感染症対策の一環として聴き取りによるアンケートを中止したため、データ収集ができず、未調査となった。</p>
	教育普及プログラムの参加者数	1,100人	1,091人	99.2%		
	教育普及プログラムの満足度	99.3%		0.0%		
	教育普及事業の状況					
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	10,954人	2,054人	18.8%	a	<p>・緊急事態宣言や緊急修繕工事で3ヶ月近い臨時休館となり、ARSコーナーなどの利用者が減少した。</p> <p>・HPについては、多岐にわたる活動の紹介と利用者の見やすさを目標に、7月に内容とデザインを一新した。Googleストリートビューの活用による展示室等のパノラマ、所蔵品データベースへのリンクによる作品の基本情報とサムネイル画像の閲覧・検索ページなど、近年もとめられる人気の高い機能を実装した。</p> <p>・情報発信の内容を再編し、メールマガジンは7月号で発行終了、HPやSNSでの情報発信に注力する方針とした。臨時休館中も、会期中で中止となった「国貞・広重・国芳コレクション」の出品作を毎日1点SNSで紹介し、鑑賞機会を提供した。</p> <p>・いつでも気軽に美術鑑賞ができるよう、「北海道リモートミュージアム」でガラスなどのコレクションの紹介動画4本を配信した。</p> <p>・全道の博物館が連携して各館の所蔵品を紹介するサイト「北海道デジタルミュージアム」では、60作品を多言語による解説とともに公開した。</p>
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	72.6%	65.4%	90.1%		
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持					
	HPアクセス件数	392,701件	1,063,835件	270.9%		
	メールマガジン等発行回数	5回	1回	20.0%		
	ソーシャルメディアの投稿数	132回	269回	203.8%		
	情報発信の状況					

【基本的運営方針】 Cの評価

評価	コメント(評価の考え方)
A	<p>○幅広い年齢層に美術鑑賞を深めてもらう事業を積極的に展開することが必要。</p> <p>○コロナ禍において情報発信のあり方を大きく見直し、HPの改善やSNSの活用拡大に取り組んだほか、コレクションや特別展をいつでもどこからでも調べたり鑑賞したりしてもらえるよう所蔵品検索システムの公開や展覧会紹介動画の配信を行った。また、全道のミュージアムが連携する「北海道デジタルミュージアム」のサイトでもコレクションを多言語で公開するなど、インターネット上での多様な情報発信に積極的に取り組み、HPのアクセス数を大きく伸ばすなど、成果を上げた。</p> <p>○今後も、SNSやオンラインでの情報発信に努めていく。</p>

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
調査・研究の充実度	学芸員による調査報告	/	/	/	b	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要はガラス工芸や北海道美術などに関する計4件(執筆者5名)の論考等を掲載して刊行。また、「羽生輝展」の展覧会図録は執筆・編集まで釧路美術館と分担して刊行した。 ・コレクションの各分野や作品、展覧会(特別展・コレクション展)等に関する調査研究を担当学芸員が行ったほか、各学芸員の個別的研究課題や関連分野の調査研究も継続的に行った。研究成果は展示への反映、各種解説執筆、新聞・雑誌への寄稿、館内外における講座・解説、トークでの発表等において幅広く示し、専門的な照会にも対応した。 ・研究の蓄積と知見を活かし、外部機関の委員や非常勤講師、講座講師などの社会貢献活動を諸機関からの依頼に応じて行った。 ・図書、文献、各種刊行物、その他の二次資料に関しては、年度末の図書購入に加え、国内外美術館の相互の資料交換を継続的に行って、学芸員の調査研究に役立てている。 ・館蔵の映像や音声ソフトについて、アーカイブ化の方針を作成し、デジタル化や整理等の作業を進めた。
	二次資料の状況	/	/	/		

【基本的運営方針】 Dの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	<p>○コレクションや展覧会に関わる調査研究の推進と社会還元に取り組むことが必要。</p> <p>○本年度はとりわけ「北海道の美術」や「ガラス工芸」のジャンルでコレクションに関連する研究が多数進められ、展覧会や紀要、講話、動画を通じてその成果を発信し、次年度の展覧会企画にも結びつけることができた。北海道釧路市在住の日本画家、羽生輝(1941年生)については、半世紀以上の画業を道立釧路美術館と共同で調査研究の上、回顧展を企画し、釧路美術館で開催することができた(当館は緊急修繕工事のため、次年度へ開催延期)。</p> <p>○コレクション研究とともに、美術館の今後を検討するために博物館学的な調査研究を推進する。また、調査研究の進展と社会還元を最も実現できる機会は、自主企画による特別展である。現在は、予算上の課題、ITの推進他による学芸業務の多様化等により、自主企画特別展の開催には困難が増しているが、企画実現の可能性向上のための環境整備と、実現に有用なテーマ・内容の調査研究の推進に取り組んでいく。</p>

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	2,192人	1,557人	71.0%	d	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動は新型コロナウイルス感染症対策や緊急修繕工事による臨時休館の影響を受け、一部休止となった。その間にもボランティアとの打ち合わせを継続し、活動再開に向けた意見交換や助言を行った。 ・ボランティア活動は、人数制限等感染症対策を実施しながら、作品解説やARS(アートレファレンスサービス)コーナーでの情報提供等を行った。 ・大学との連携は、対面授業や学外活動に制限があることから、実施できなかった。
	ボランティアが活動しやすい場の提供					
	地域と連携した取組の状況					
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	2校	1校	50.0%	c	<ul style="list-style-type: none"> ・出張アート教室は申込のあった2校と感染症対策を行いながら、滞りなく実施した。 ・キャンパスパートナーシップは大学2校が止め、1校が新たにメンバーとなった。インターンシップ研修は申し込みがなかった。 ・博物館実習は延べ9校33名の学生を受け入れた。 ・指導者研修は学校における感染症の蔓延状況を鑑み、校外活動の制限があることから中止となった。 ・感染症等の影響により、昨年度に引き続き修学旅行等の観覧は減少したが、学校との連携を強化するため、団体観覧、体験学習、鑑賞学習支援ツール等の案内を掲載したチラシを、全道立学校と石狩管内の全小・中学校に配布した。
	出張アート教室の延べ参加者数	170人	68人	40.0%		
	指導者研修の延べ参加者数	5人	(実施せず)	—		
	学校教育活動への対応数	20件	4件	20.0%		
	参加者・利用者満足度					

【基本的運営方針】 Eの評価

評価	コメント(評価の考え方)
D	<p>○道民等の美術に対する関心の向上と美術館の利用促進を図るため、地域の文化活動等との連携を強化する取組が必要。</p> <p>○美術館協会や学校との連携は、綿密な連携のもとに感染症対策をしながら実施したが、長引く感染症の流行や緊急修繕工事による臨時休館の影響を受け、実施数が減少した。</p> <p>○コロナウイルスの感染症対策を講じながら、ボランティア活動を支援し、学校連携の推進、他美術館のネットワークを強化していく。</p>

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
附帯施設の充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	77.2%	62.9%	81.5%	d	・感染症対策や設備改修工事による休館の影響もあり、カフェ及びミュージアムショップと協働した取組の実施に至らなかった。 ・今後は、来館者アンケートの意見等を参考に、カフェ事業者やミュージアムショップを運営しているボランティア団体と協議しながら、連携してサービスの向上に努めたい。
	ミュージアムショップ利用者満足度	73.9%	69.8%	94.5%		
	事業者と協力してのサービス向上の実践					
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	82.9%	82.0%	98.9%	b	・職員とボランティアが展覧会ごとに学芸員のガイダンスを受け、理解を深めた上で来館者への対応にあたっている。 ・外国人をはじめ、誰もが利用しやすい環境となるよう、英文による作家解説を増やしている。 ・三岸好太郎美術館、知事公館との連携事業は感染症対策のため中止した。 ・経年により劣化が進み、傷や汚れが顕著な野外彫刻6点について、必要な修復を行った。今後も計画的に修復を行っていく。 ・来館者の利便性向上のためキャッシュレスサービスを導入した。 ・来館者アンケートの意見への対応について展覧会ごとに館内に掲示し、来館者へ周知、理解を図っている。
	ホスピタリティ向上に向けた取組み					
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度	79.3%	78.6%	99.1%	b	・施設・設備の老朽化が進んでいることから、展覧会の開催に支障がないよう点検を行い、すみやかな改修・修繕が必要な屋根、空調設備、給排水管等の一部について、改修等工事を行った。 ・来館者が快適に施設を使用できるよう、ロビーのソファ・絨毯の交換、展示室の床タイル・壁紙の張替え、前庭広場タイルの補修等を行った。 ・感染症対策として、入口の検温カメラ・モニター、展示室の入退場カウントシステム等の整備を行った。
	施設安全性保持のための必要な措置					

【基本的運営方針】 Fの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	○施設・設備の老朽化が進んでいるものの、展覧会の開催に支障を来さぬよう、日常の施設・設備の点検や、計画的な更新工事、補修必要箇所が判明した場合の迅速な対応が求められるほか、来館者の利便性や快適性向上のための継続的な取組が必要。
	○令和3年度については、施設・設備の老朽化に伴う必要な工事を適宜行い、館内の環境整備を図るとともに、感染症対策のため、展示室の入退場カウントシステム等を新たに整備した。また、来館者の利便性・快適性向上のため、備品等を更新するとともに、キャッシュレスサービスを導入した。
	○今後は、引き続き、計画的な更新工事や環境整備を行っていくとともに、カフェ事業者やボランティア団体と連携した取組を実施し、更なる来館者サービスやホスピタリティの向上に努めていく。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E